

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 二木 綾香

2018 年 8 月 18 日から 8 月 27 日の 10 日間、私はバンクーバーサマープログラムに参加しました。1 週間という短い期間でしたが、その時間の中で薬学英语の学習、現地の施設見学、ホームステイなど多くのことを経験することができましたので報告します。

1.バンクーバーの基本情報

留学当時、バンクーバーのあるブリティッシュコロンビア州では多くの山火事が発生していたため、晴れていても遠くの方の景色は霞んで見えました。8 月の最高気温が 22 度、最低気温が 14 度と、日本の夏に比べ涼しく過ごしやすかったです。また、バンクーバーの家賃は世界で 2 番目に高いと言われており、家を持っていない人や持っていて生活できない人が多い人が多く、ダウンタウンでも時々ホームレスの方を見かけました。



8 月 21 日午前 6 時半頃にホームステイ先近くのバス停から撮影。
山火事の煙の影響で遠くの景色が霞んで見える。

2. Vancouver International College

現地では Vancouver International College (VIC) という留学生が通う学校に大薬専用のクラスが設けられ、参加者の大薬生とともに薬学英语を学びました。薬学英语ということで、症状やさまざまな痛みの表現の英単語の暗記や服薬指導の練習など、外国人に対して仕事をするときに役に立つ内容でした。さらに歴史を変えた薬の開発者やその副作用などをインターネットで調べて発表するという能動的な取り組みもありました。英語に自信がなく授業についていけるか不安でしたが、担当の先生がジェスチャーをして分かりやすく説明をしてくださったので理解することができました。

バンクーバーのダウンタウンにある語学学校の一つ。学校内は英語オンリー。常時日本人のスタッフの方がいらっしゃいます。



また、現役で働いている救急隊員と医者の方々から貴重な機会をいただきました。救急隊員の方は Jump kit と呼ばれる救急セットの中身を見せてくださいました。医者の方は主にカナダの医療制度についてお話していただきました。カナダの医療制度は国民皆保険制度を採用していて、国が医療費を全額負担してくれるという利点がある一方、財政が破綻しないためにウェイトリストを作成し、緊急の人を優先するため、治療を受けるのに何ヶ月や何年も待たなければなりません。また、自分で専門医を選んで受診する日本と違って、カナダでは専門医は家庭医の紹介なくして受診できないシステムになっているため、患者はまず家庭医に診断してもらう必要がありますが、家庭医の数が少ないことも問題となっており、患者は家庭医を探すのが困難なようです。

お二人の話は専門単語が多く聞き取ることが難しかったですが、翻訳者が同伴してくださったので、貴重な話を理解して聴くことができました。



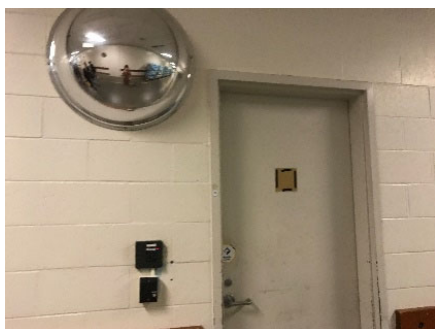
Jump kit の中にある薬の一部。
他にも酸素マスクや舌が気道を
塞いでしまうのを防ぐ道具
などがありました

3.施設見学

VIC での授業だけでなく、セント・ポールズ病院、バンクーバー総合病院、UGM リカバリーセンター、スプロットショー・カレッジの4箇所の施設を見学しました。

●セント・ポールズ病院

この病院の薬剤師とテクニシャンをまとめて管理している方に病院内の薬剤部を案内していただきました。薬剤師35人、薬を作るテクニシャン65人で構成され、1日に400～500人分の処方箋を取り扱っています。薬剤師は地上で患者と会話をする人と、地下で医者から送られてくる処方箋に問題がないか確認する人に分かれています。



薬剤部の入口。
患者が薬だけを求めてここに来ることを
防ぐために入口には看板がない。

●UGM リカバリーセンター

イースト・ヘイスティングス・ストリートをバスで移動した際、道にゴミが散乱している様子や座り込んでいるホームレスを多く目にしました。この通りにある Union Gospel Mission は薬物中毒者、アルコール依存症、ホームレスが社会復帰できるように支援する施設です。募金で運営されている施設であり 1 年で 1500 万円ほど集まるようです。この施設は誰でも利用することができ、ボランティアで来ている一流シェフの料理が無料で提供されています。さらに、自立しようとする強い意志がある人には部屋が提供され、去年は 500 人ほど自立することができたようです。私はこの施設の方から説明を聞いた際、多くの人に支えられている施設だと感じました。

●スプロットショー・カレッジ

BC 州各地にキャンパスを持ち、ビジネス系、ホスピタリティー系、医療系、幼児教育系などを設けているビジネス専門学校です。カナダでは以前働いていた所とは違う分野に再就職する人が多く、子育て後の社会復帰のために主婦の方も通っています。

この学校では 1 年半をかけてファーマシーアシスタントの育成を行なっています。ファーマシーアシスタントとは、仕事内容はテクニシャンとあまり変わりませんが、テクニシャンと違って薬剤師がいないと何もすることができません。カナダの薬局の多くは 1 人の薬剤師と多くのテクニシャンとアシスタントで構成されているので就職しやすいそうです。



医療系にはファーマシーアシスタントの他に看護師の育成も行われています。
妊婦さんの模型にはちゃんと赤ちゃんが入っており 2 分半で生まれるように設定されています。日本の模型とは違って顔や髪の毛まであるのが驚きでした。

4. ホームステイでの生活

私がホームステイした Palma さんの家はコロンビア、サウジアラビア、ベトナム、日本、ドイツ、イタリアなどから合計 10 人ほどの留学生を受け入れていました。家族と留学生との生活スペースを地上と地下で分けている家庭で、ファミリーより他の留学生と交流することが多かったですが、時々ホストマザーに誘われ夕飯を一緒に食べたり、マザーの友達と共にズンバダンスを踊ったりもしました。ホストファザーは平日、留学生たちにお弁当を作ってくれましたし、14 歳の娘さんはとてもフレンドリーで、お土産に持っていった抹

茶や日本のスナック菓子をあげると、わざわざ私の部屋を訪れて感謝してくれるほど喜んでくれました。

家族の 1 人として迎えらるというイメージとは違って、居候のように過ごしていたホームステイ生活ではありましたが、ファミリーや他の留学生の優しさで、とても充実したものになりました。



左がホストマザーと他の留学生。
右が 14 歳の娘さん。

5. 感想

1 週間という短い期間でしたが、英語学習、施設見学などができ充実した時間でした。英語に自信のないまま勢いで申し込みましたが、参加してよかったと思いました。観光地としての表面上のバンクーバーだけではなく、薬物乱用者やホームレスがいること、病院で治療を受けるのに時間がかかることなど、多くの問題を抱えているバンクーバーの内側を知ることができました。きっと参加しなければ知ることもなかったでしょうし、知ろうともしなかったでしょう。

カナダに行って感じたことは、自分の知識の無さです。カナダの医療事情を学びに行っているのに「日本はどうなの？」と聞かれたときに、そもそも自国の医療保険や医療人の勤務時間など全く知らないことを痛感しました。また、卒業後は病院か薬局に勤めると勝手に自分の進路を決めつけていましたが、今回の留学を通じて、きっと他の職業でも薬学が役に立つのではないかと考えられるようになりました。

最後に、今回このような機会を与えてくださった国際交流委員の先生方、学生課の皆様など携わってくださったすべての人に感謝申し上げます。今回の留学を無駄にしないために、これからの日々を考えながら過ごします。